

県教委 わいせつ行為根絶対策

「小児性愛」自己分析

教職員向け回収はせず

県教委は9日、公立小中高校と特別支援学校の全教職員を対象に、小児性愛の傾向があるか自己分析してもらう「チェックシート」を本年度から導入すると発表した。教職員によるわいせつ行為を根絶するため、昨年10月に打ち

出した「特別対策」の一環。県教委は、自らの性向を自覚してもらい、専門機関への相談につなげて、わいせつ行為を抑止したいと説明。一方で、回答については回収しないと

の再犯防止に向けた治療などに取り組むNPO法人「性障害専門医療センター」(東京)代表理事で医師の福井裕輝氏の協力で作成。「子どもに対する性的な想像や考えを持っていても、それは少なくとも子どもを傷つけていないから、そんなに悪いことではない」といった6項目の質問を設けている。

県教委によると、6項目のうち1つでも「そう思う」に該当すると、小児性愛の傾向の可能性があるという。自らの判断で必要に応じ、シートに記載された一般社団法人男女問題解決支援センター(03・68860・8492)などに相談する。県教委は「正直に回答してもらうため回収はしない」としている。

対象は県教委事務局の職員も含め約1万8千人で、年1回実施。同支援センターへの相談件数などは公表予定としている。